

校番	68	学校名	広島県立祇園北高等学校	校長氏名	濱岡 正	☎・定・通	Ⓓ・分
----	----	-----	-------------	------	------	-------	-----

1 ミッション(地域社会における自校の使命)

「敬愛・信義・忍耐」の校訓のもと、文武両道を実践し、高い志・真の学力・豊かな心・グローバルな視野をもつ社会的に有為な人材を育成する。

2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

- (1) 生徒が学習・部活動・学校行事へ一生懸命に打ち込み、高校生活の中で逞しく成長していく学校
 - (2) 生徒の志を高め、学力を着実に伸ばし、高い進路目標を実現していく学校
 - (3) 学校関係者及び地域社会との連携・協力を図り、生徒一人一人の生きる力と豊かな人間性を育む学校
- これらの実現に向けて、すべての教職員がそれぞれの能力と力量を学校の組織力につなげ、果敢に挑戦していく。

3 環境分析

(1) SWOT 分析

内部環境 外部環境	<p>強み (Strength)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習と部活動を両立させる伝統的な校風が根付いている。 ・基本的な生活習慣の確立がかなりでき、素直な生徒が多い。 ・学校行事が活発であり、保護者が協力的である。 ・理数コースの教育内容が充実している。 	<p>弱み (Weakness)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の立てた目標に挑戦する生徒がやや少ない。 ・生徒の自主的な行動や学習習慣の確立が必要である。 ・精神的にひ弱な生徒が増えてきている。 ・生徒の学力を着実に伸ばす仕組みを再構築する必要がある。
<p>機会 (Opportunities)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元中学校、地元教育関係者や地域社会との連携が計画的・継続的にできている。 ・中学校から一定の評価がある。 ・チャレンジハイスクールの指定が継続している。 ・継続的な高大連携ができる体制がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高いレベルでの文武両道を実践する生徒を育成する。 ・規律ある学校生活を送らせるとともに、学校行事に積極的に取り組ませることにより、豊かな人間性を育成する。 ・高大連携を継続・発展させ、理数コースの教育内容及び科学研究部の研究内容の深化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が高い志を持ち、その達成に向け自律・挑戦できるよう、生徒を鍛えとともに支援する。 ・教科主任を中心として、組織的な「授業づくり」を推進する。 ・小中高の連携を緊密なものとし、ボランティア活動をより一層推進することにより、地域から信頼される学校としての北高ブランドを確立する。
<p>脅威 (Threats)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島市中心部への中学生(受検生)の流出がみられる。 ・大学進学の実績における他校との競争が激しくなっている。 ・理数コースへの入学希望者が安定していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実績の向上及び部活動の活性化をさらに推進し、安定した実績を出せる体制を構築する。 ・理数コースの教育内容を積極的に情報発信し、志の高い生徒を募集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談活動の充実を図り、生徒への支援体制を強化する。 ・HP の改善に向け、人材の育成を図る。 ・学校案内のコンテンツの充実を図る。

(2) 学校経営目標

- ①文武両道を基本理念とした教育活動の充実のため、教職員の授業力、部活動等の指導力・実践力の向上を図る。
- ②キャリア教育の充実を図り、生徒の高い志を育み、生徒に自律的学習習慣を身に付けさせ、生徒の第一希望の進路実現を図る。
- ③地域との連携、保健活動、教育相談活動を充実させ、道徳教育と特別支援教育を推進して、生徒一人一人の自立と自律を支援する。
- ④理数コースの教育内容の充実と積極的な情報発信により志願者を確保するとともに、今後の理数コースの在り方について検討する。
- ⑤果敢に挑戦する学校文化を根付かせるため、業務改善を推進し、研修を充実させ、教職員及び生徒の一体感を高めしていく。

4 目標の設定

学校経営目標							
達成目標	評価指標	実績値		目標値		担当部等	
		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度		
1 教職員の授業力・実践力と学校組織力の向上 ①⑤							
生徒にとって「力が付く授業」の実践がなされている。	生徒の授業アンケートの授業満足度に関する項目の肯定的回答率	—	—	80%	85%	教務部	
教職員が個々の役割を果たし、業務を組織的に遂行し、業務の改善に積極的に取り組み、学校経営への参画意識を高めている。	業務改善に関する教員アンケートの肯定的回答率	—	88.7%	90%	90%	校務運営会議	
2 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実 ②④							
自己の生き方、在り方を考え、進路目標を設定し、その第一希望の進路実現に向け努力する生徒を育成する指導がなされている。	国公立大学現役合格者数	86 名	69 名	100 名	110 人	進路指導部	
	大学入試センター試験結果(900 点換算)が全国平均点以上の人数	52 名	30 名	60 名	70 名	進路指導部	
	1年1月模試における国数英総合偏差値 54 以上の人数	81 名	119 名	120 名	125 名	進路指導部	
	2年1月模試における国数英総合偏差値 54 以上の人数	39 名	43 名	70 名	75 名	進路指導部	
本校の教育活動を、中学生及び保護者等に対して、定期的・効果的に情報発信している。	オープンキャンパスの参加者数	1,316 人	1,450 人	1,500 人	1,550 人	総務部	
	HPの更新回数	90 回	120 回	130 回	140 回	総務部	
高大連携の推進を中心として、理数コースの教育内容が深化している。	生徒アンケートの肯定的回答率	新規	83%	85%	85%	理数コース	
3 生徒の自立と自律の組織的な支援 ③							
家庭学習を習慣化させる取組がなされている。	宅習時間調査での目標達成率 (1年 130 分/日) (2年 130 分/日) (3年 260 分/日)	1年 37% 2年 43% 3年 28%	1年 50% 2年 59% 3年 28%	1年 60% 2年 70% 3年 40%	1年 60% 2年 70% 3年 45%	進路指導部	
規範意識の高い生徒を育成する指導がなされている。	1日平均の遅刻者数	4.0 人	4.1 人	4.0 人	4.0 人	生徒指導部	
生徒の自己存在感を高める取組がなされている。	主体的に行事や委員会、部活動、ボランティア活動に参加したと考える生徒の割合	—	89%	90%	90%	生徒指導部	
教育相談体制が整い、生徒の支援に役立っている。	生徒・保護者アンケートの肯定的回答率	—	92%	90%	90%	保健部	
校内環境美化活動が積極的に行われている。	生徒・保護者アンケートの肯定的回答率	—	85%	90%	90%	保健部	

5 行動計画

学校経営目標				
	達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	
1 教職員の授業力・実践力と学校組織力の向上 ①⑤				
	生徒にとって「力が付く授業」の実践がなされている。	授業改善の成果としての達成目標を個々に設定し、それに向けた授業づくりに努め、評価に基づいた振り返りを行う。 また、教科主任会議(活用コラスクール推進会議)を開催し、学びの変革に向けて組織的に各教科指導力の向上に努める。	本校における授業づくりのスタイルを確立するとともに、授業評価のシステムを構築し、データの蓄積を図る。また、学びの変革に向けた取組の充実による授業研究を推進し、各教科の成果をまとめる。	教務部
	教職員が個々の役割を果たし、業務を組織的に遂行し、業務の改善に積極的に取り組み、学校経営への参画意識を高めている。	業務改善に係る会議を開催するとともに、業務改善についての教員アンケートを実施する。	組織的で意欲的な業務遂行を行い、保護者・地域から信頼される学校づくりをすすめる。	校務運営会議
2 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実 ②④				
自己の生き方、在り方を考え、進路目標を設定し、その第一希望の進路実現に向け努力する生徒を育成する指導がなされている。(3年生)	各学年の進路判定会議(進路検討会議)等を定期的に開催し、学級担任や教科担任による生徒への指導を充実させるとともに、受験に向けた意識を高めるための、組織的・計画的な指導を展開する。	自己の適性に応じた望ましい進路目標の設定が可能となるよう、進路ロングホームルームや進路講演会等における指導の内容について適宜見直しを行う。	進路指導部	
	生徒の学力分析を進め、各教科等における適切な目標設定や、指導の充実を図る。	各教科における指導の充実に向けた取組(補習・補充等を含む)を継続して進める。	進路指導部	
家庭学習の習慣を定着させ、第一希望の進路が実現できる学力を身に付けた生徒を育成する指導がなされている。(1・2年生)	学級担任による生徒への個人面談等の指導を継続するとともに、進路講演会等を通して生徒の学習への意識の向上を図る。	家庭学習の習慣が十分に定着するよう、指導内容について適宜見直しを行う。	進路指導部	
	各教科等における適切な目標設定や、指導の充実に向け、生徒の学力分析を進める。	各教科における指導の充実に向けた取組(補習・補充等)を継続して進める。	進路指導部	
本校の教育活動を、中学生及び保護者等に対して、定期的・効果的に情報発信している。	オープンキャンパスを年2回実施するとともに、体験授業(7月)の内容の充実や生徒による進行などの改善を図る。また、中学校における説明会確保のため、中学校に積極的に働きかける。	学校案内のコンテンツの充実を図る等、生徒募集の方法を積極的に改善することにより、地域の優秀な人材を集める。	総務部	
	昨年度はHPをリニューアルし、今後は最新の教育活動を発信するため、できる限りリアルタイムでのHP更新に努める。	HPのコンテンツの充実を図る等、積極的にHPの改善を図るとともに、情報管理のできる人材を育成する。	総務部	
	理数コースの活動内容を紹介するパンフレットを作成し中学生に配付する等、理数コースの認知度アップに向けた取組を行う。	理数コースの教育活動を積極的に情報発信し、理数コースへの志願者を安定的に確保する。	理数コース	
高大連携の推進を中心として、理数コースの教育内容が深化している。	SSH校との連携を図るとともに、サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)について、1年生では生物分野、2年生では物理分野を実施する。また、広島市立大学との情報分野における連携授業を充実させる。このような取組を通して生徒のプレゼンテーション能力の更なる向上を図る。	SPP及び近隣大学等との連携授業を中心に、教科との連携や総合的な学習の時間の活用等を図り、理数コースの教育内容及び科学研究部の研究内容を深化させる。	理数コース	
3 生徒の自立と自律の組織的な支援 ③				
家庭学習を習慣化させる取組がなされている。	学級担任による生徒への個人面談による指導を強化するとともに、進路講演会等を通して生徒の進路・学習への意識の向上を図る。	家庭学習の習慣が十分に定着するよう、指導内容について適宜見直しを行う。	進路指導部	

<p>規範意識の高い生徒を育成する指導がなされている。</p>	<p>校門指導の継続や遅刻回数に応じた段階的指導を徹底する。また、遅刻指導について、生徒指導部・担任間連携の利便性を維持する。</p>	<p>校門指導・遅刻指導を通して、遅刻生徒に生活リズムを改善させる取組をする。また、他の分掌とも連携して、新しい遅刻統計システムを模索する。</p>	<p>生徒指導部</p>
<p>生徒の自己存在感を高める取組がなされている。</p>	<p>掲示板等を活用し、部活動の活動内容や試合結果等をリアルタイムで披露する。また、「福島ひまわり里親プロジェクト」等のボランティア活動について、地域の小学校・中学校・大学と連携し、取組の充実を図る。 部活顧問会議を定期的に行い、文武両道に向けた指導の充実を図る。</p>	<p>生徒の部活動への定着率の高レベルでの維持を目指し、高いレベルでの文武両道を実践する生徒を育成する。また、「福島ひまわり里親プロジェクト」等のボランティア活動について、海外姉妹校との連携を図る。</p>	<p>生徒指導部</p>
<p>特別支援教育活動が組織的に行われている。</p>	<p>教育相談、サポート委員会を活用し、支援を必要とする生徒の支援方法を検討し、全教職員で取り組むような校内支援体制を確立する。また、発達障害の可能性のある生徒への対応を進める。</p>	<p>校内の教育相談活動を充実させるとともに、教職員間の連携を密にし、サポート体制を充実させる。</p>	<p>保健部</p>
<p>校内美化活動が組織的に行われている。</p>	<p>小中高合同環境美化活動を通して、地域との協力体制を築く。また、美化委員や部活動生徒をはじめとして、生徒の環境美化に対する自主的な活動を促し、全体的な取組へとつなげる。</p>	<p>小中高合同環境美化活動を継続し、地域との協力体制を確かなものとする。また、生徒の自主的態度を育て、環境美化に対する意識を高める。</p>	<p>保健部</p>